

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.65
2016.3



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

“クロカワゲラの仲間”の雪上ハイク

ポカポカ陽気が続き、もともと少なかった雪が目に見えて消え始めたある日、ざらめ雪の上をせっせと歩き続けている2種類のクロカワゲラの仲間に出会いました。見た目はよく似ていますが、片方は翅がありもう一方は翅らしきものが見あたらず。残雪期の雪の上をひたむきに歩く姿をよく見かけ、久しぶりに地面で動く生きものに会えた嬉しさがこみあげてきました。卵から幼虫時代を川で過ごし、下流へ流され上陸した成虫は産卵のため上流の沢を目指すとか。彼らに会うと「この近くには沢がありそう」と推測でき地形を知る上でも役立ちます。「どうしてまだ寒い時期に、ましてや冷たい雪の上を歩くの?」と疑問が湧いてきますが、「雪のない外敵だらけの地面を歩くよりはましかも」と勝手な想像を巡らせてしまいます。今度会ったら彼らに聞いてみよう…。

What is “Kurokawagera”?

「雪上で見られるカワゲラ」

クロカワゲラ科

体長：8～10mm 前後

分布：青森～兵庫（写真上）

北海道～九州（写真下）

多くの昆虫が活動する暖かい季節は幼虫のまま川の底で休み秋頃から成長し始め、冬になると成虫になり上陸し太陽などを頼りに上流へ向かう。他のカワゲラの仲間と異なり比較的長生き。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

Amihari Birds

アオゲラ

科名:キツツキ科
 全長:約29cm
 生態:留鳥
 分布:本州～屋久島

アミハリ・バーズ Vol. 8

春の森でピョーピョーと口笛のような音が聞こえる事があります。声の主は日本の固有種アオゲラです。繁殖期には先の特徴的な鳴き方をしますが、普段はキョッキョッとアカゲラに似た地鳴きをします。

キツツキの仲間は鳴き声の他に、木をつつく事によって様々な音を出します。木をつつく状況は3つに分けられ、1つめは木の中の昆虫をとる時、2つめは巣穴やねぐらの穴を作る時、3つめはなわばりの宣言や求愛・コミュニケーションをとる時に、ドラミングと呼ばれるダダダダッ…と連続して木を打つ特徴的な音を出します。ドラミングはより大きな音が出るように、中が空洞になった枯れ木や木造の家屋などもつづく事があります。

木をつつく衝撃は相当大きいのですが、キツツキの仲間は舌骨という器官がクチバシから頭蓋骨の上までぐるりと丸まっており、これがシートベルトのような役割をして、頭を守る役割の1つを担っているそうです。

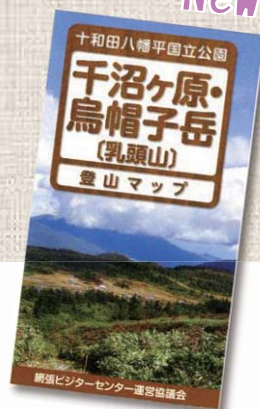


☞ 網張温泉館の玄関前に散乱していたアオゲラの羽。何者かに捕食されてしまった!?

網張ビジターセンター運営協議会オリジナル 千沼ヶ原・烏帽子岳(乳頭山)登山マップ が今春完成いたしました!



無料です



姉妹版の岩手山・網張コースマップも、好評配布中!

この登山マップは、岩手側から千沼ヶ原と烏帽子岳(乳頭山)へ登る平ヶ倉沼コースと滝ノ上温泉コースについて詳しく解説したものです。標準的な所要時間や各コースの特徴や注意点、ポイントとなる写真も盛り込みました。折りたたみ式でポケットサイズになりますので、登山される方の安全に役立ててもらえれば幸いです。ご希望の方は、網張ビジターセンターでお渡ししておりますので、スタッフにお声かけ下さい。

網張に向かう県道が小岩井農場を過ぎ、岩手山の裾野に沿って西に進路を変え、高度を上げていくと、シラカバやダケカンバの混じる林の合間に潇洒なペンション村が見えてきます。喧噪の都会から来た観光客は、ほっと溜息をつき、いつかこんなところで暮らしてみたいと夢想したりします。・・・今から四十年近く前に、東京からこの地に移ってきた家族がいました。「ペンションさんりんしゃ」のオーナー、三輪 亨さんのご一家です。

第五話・・・網張高原でペンション経営を始めた三輪さんの話・・・

「なんと荒涼としたところだろう。一木一草無い」

・・・移り住んだ頃の網張高原の印象について・・・

「初めて、網張に来たのは昭和五十三年の秋、東北新幹線は、まだ開通しておらず上野から盛岡まで在来線の特急で六時間二十分もかかった」。当時、三輪さんは東京の会社で働くバリバリの経理マン。山仲間だった上司が会社を辞めてハケ岳の麓で始めたペンションに遊びに行ったことが、その後の人生を大きく変えることとなります。

「雄大な自然の中で生き生きと働く先輩の姿がとてもうらやましく思え、いつか自分もこんな生活をしたいと思ったね。それまで岩手には来たことも無く、ペンション紹介会社のリストでも網張が一番北、全く未知の場所だった」。それが現地に来てみると目の前に広がったのは岩手山から雫石盆地、そして奥羽の山並みが累々と続く広大な景観、すっかり心を奪われてしまったそうです。当時、三輪さんは三十三歳、子供は二歳と三歳、この地でペンション経営をする決意で脱サラ、昭和五十四年の春には開業にこぎつけます。その頃のペンションはたった三軒、国立公園に隣接しているとはいえ、業者が造成したペンション用地は酸性の強い火山灰土壌がむき出しで荒涼とした一帯だったそうです。農協からクローバーの種を買って蒔いたり、植樹したり、苦労を重ね少しずつ緑を増やしていきました。開業の翌年、雫石スキー場がオープンし、空前のスキーブームが訪れペンション経営も軌道に乗っていきます。「多くの若者が押しかけ、スキー場からペンション村まで道路に沿って縦列駐車の手で埋まり、その間をシャトルバスがピストンで送迎したこともあったよ。アルペンスキー世界選手権が雫石町で開催された頃がピークだったね」。バブル経済が破綻して利用者は少しずつ減るようになり、平成十年には岩手山の火山活動が活発になり入山禁止措置、同じ年の葛根田を震源とする震度6の岩手県内陸北部地震では被害を被ったペンションも出て岩手高原スキー場は休業する事態に。「客足が激減し最盛期には十八軒もあったペンションも、気が付くと一軒、また一軒と数が減っていった。」と三輪さんは当時を振り返ります。日本中を振り回したリゾート開発の盛衰と網張は無縁ではいらなかったのです。「スキーブームの頃の恵まれた若者と比べ、今は多くの若者が非正規雇用で遊びに来る余裕がなくなっている。」と三輪さんは感じています。「冬はスキーの若者、夏は小岩井農場やけんじワールドに来る家族連れで賑わった。ほとんどが仙台や首都圏からのレジャー客だった」。最近では昔からの常連客の他に地元の温泉保養客が増えるなど利用の流れが変わってきたそうです。「開業ときにテレビ取材を受け『お金の苦労が無かったら天国です。』と答えたのが全国放送で流されたけど、それは今でも変わらないなあ。」「苦労はたえないが、ここで子供が育ち、ずっと家族一緒に生活ができたのは幸せな人生だと思うよ。」と語る三輪さんが今一番気にかけているのが最近の気象の変化だと言います。



開業直後のペンション「さんりんしゃ」
三輪さんと奥さんの敬子さん

「来た当初は最低気温が-18℃、-19℃は珍しくなく、朝起きると窓が真っ白に凍って外が見えないんだよ。息を吹きかけ、とけたところで今日の天気かわかるというような毎日だった。ペンション村から網張温泉に行くちょっとした距離が猛吹雪で何も見えず道路わきの電柱を頼りに前に進んだこともあった。それが今では最低が-10℃を切ることが珍しくなり、雪の量も昔とは比べられないくらい減ってきた。温暖化が加速度的に進行しているのを肌で感じるよ」。網張高原に住んでいるがゆえに三輪さんは社会の変化、自然の変化を私たちより一層敏感に感じ取っているのかもしれない。



現在の緑豊かな岩手高原ペンション村一帯。
新緑から紅葉時期までハイキングが楽しめる

「十和田八幡平国立公園（八幡平地域）指定60周年記念式典の開催」

平成28年度は十和田八幡平国立公園八幡平地域の指定60周年を迎えます（昭和31年7月10日指定）。60周年を記念した式典を以下のとおり開催致しますので興味のある方は是非ご参加下さい。午前中には見返峠で八幡平の山開き、安全祈願祭がとり行われます。

【記念式典】

○日時：平成28年5月22日（日）14:00～16:00

○場所：岩手県八幡平市〔八幡平ロイヤルホテル（ロイヤルホール）〕

○内容：

◇基調講演：十和田八幡平国立公園八幡平地域を振り返って

講師：岡野 治（おかの おさむ）、元岩手県自然保護課自然公園担当課長

環境省盛岡自然保護官事務所
からのお知らせ

◇シンポジウム：これからの国立公園八幡平を考える

進行：渋谷晃太郎（岩手県立大学総合政策学部教授）

パネリスト：坂内美佳（網張ビジターセンター解説員）

平山順子（ガイド、八幡平市自然保護管理員）

葛西さや香（八幡平ビジターセンタースタッフ）

佐藤裕之（ガイド、田沢湖キャンプ場代表）

○主催：環境省東北地方環境事務所

自 然 観 察 会 報 告

1月23日 鞍掛山麓アニマル
1月30日 トラッキング

◆ 追加開催も含め一般36名、スタッフ24名の参加で広大な牧野や深い森の中で動物たちの痕跡を追いました。今年は捕食者のキツネ、テンの足跡が多いのに対し、ウサギの足跡がほとんど見られない



のが気になりました。それでも参加者はこの時期しか見ることのできない自然の姿に大満足でした。

2月21日(中止) 巖鷲の滝
2月28日 スノー・ハイク

◆ 季節外れの高温と異常発達した低気圧の通過で、21日の行事は中止。冬型に戻った一週間後に新雪を踏んで鞍掛沢の源流部を目指しました。ブナの原生林が出てくる付近でお目当ての「巖鷲の滝」を見下ろす高台に



到着。暖冬の今年は、いつもより小ぶりながら、すくくと氷の柱を保ちなんとか及第点をもらえました。一般16名参加。

3月12日 雪の鎌倉森をめざす
3月19日 (雪山登山体験)

◆ この時期の網張として滅多に見られない無風、晴天に恵まれ、21名の一般参加者は、焼石～和賀～岩手山の絶景と鎌倉森頂上で演奏されたハーモニカの調べに魅了されました。アトラクションでイグルー造りも楽しい思い出となりました。19日は小雨の中11名が参加。



インフォメーションコーナー
詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

滝沢市主催 網張ビジターセンター後援
国立公園八幡平地域指定
60周年記念行事
「平成28年鞍掛山山開き
イーハトーブの風景地を登ろう
ウォークラリー」記念品ももらえるよ。
4月29日(金) 昭和の日
相の沢駐車場9時までに集合 参加費:無料

網張周辺の春の妖精たちと出会う
「早春の網張自然観察会」
4月30日(土)
網張ビジターセンター
集合
9:30~13:30
定員20名
参加費大人500円
小学生300円



ミニ企画行事(予約はいりません)
*「ビジターセンター周辺で
バードウォッチング」
*「ちょっと森林浴散歩」
*「ワクワク館内ツアー」
国立公園八幡平地区の魅力」
など週3回程度実施します。
月によって開催日が異なりますので
ホームページで確認されるか直接VC
へお問い合わせください。

工藤 義之 水彩画展
「山の頂上の風景」
岩手山、姫神山、早池峰山など岩手県内九座
の山頂風景が爽やかによみがえります

●現在開催中の網張ビジターセンター企画展●
4月30日までビジターセンター展示コーナーにて

工藤 義之 氏
1945年生まれ 盛岡市在住



「東根山」春、山頂はシラネアオイで咲き乱れ、北側に振り向くと雪を残した岩手山を望む・・・

「・・・頂上は360度さえずるものが無く、遠くまで景色を見ることが出来る場所、苦勞して登った達成感を味わうことが出来る場所です。せっかく頂上に着いたのにちょっとだけ休んで直ぐ下山する人やゆっくりおにぎりを食べて一眠りしている人、写真撮影に一生懸命な人のようにさまざまな登山者の姿、山頂の形状の違いで人々の休み方の違いなどを見て、この風景を絵にしようとして水彩画に描いてみました。(本人談)



「八幡平」山頂とはいえ、八幡平は山頂といった形状を成してなく、周りは樹木で覆われて・・・

モモンガのつぶやき
先日、山スキーで三ツ石へ行ってきました。冬に登るのは初めての体験で、なんとか転ばずに下りる事ができました。
今年は雪が少なく、三ツ石の山頂付近も、だいぶ岩が出てましたが、途中吹雪く事もあり、厳しい冬山の一面もかいま見られて良かったです。(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター
来館者数 ◆1月 1, 410人 ◆2月 1, 436人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆1月 -8.5℃ ◆2月 -7.3℃
発行 網張ビジターセンター運営協議会
〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL http://amihari17.ec-net.jp
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館 冬期(11月~3月)毎週火曜日休館 9時~17時
夏期(4月~10月)休館日なし